

山行報告書

山行管理部

サロン 百舌鳥古墳 7月4日 L阪上 岸本 参加6名
堺東駅 10:00—反正天皇陵—方違神社—丸保山古墳—仁徳天皇陵—大仙公園—堺市博物館—堺市緑化センター—自転車博物館—百舌鳥駅 15:00

当日は雨、風、突風、が吹きSさんの天皇陵の説明を聞きながら時折エピソード交え足どり速く大仙公園、博物館を見、今現在堺市役所閉めているので次は展望から見たい。

- ・午前中雨の勢い歩きにくかったが反正天皇陵・仁徳天皇陵、などメインとなる古墳を巡る事が出来てまずまずだった。
- ・こんもりと繁る森の古墳、健治中は野原だったんだらうな～
- ・先人の声が聞こえそうな古墳郡をぶらぶらとハイキング、久しぶりにまったりした。
- ・古代を引き寄せて巡る巡梅雨末期
- ・雨の中の大仙公園は少人数でしたがとても良かったです。

協力ありがとうございました。

(岸本 記)

ウィークデイ 滝坂の道から鶯の滝 7月15日

C.L 近藤 S.L 木村 (佐) 参加 11名
奈良公園 10:00 — 春日山遊歩道入口 10:40 — (滝坂の道) 寝仏 11:10 — 夕日観音 — 朝日観音 — 首切り地藏 11:45(昼食) — 芳山交番 12:30 — 鶯の滝 13:00 — 首切り地藏 14:05 — 春日山遊歩道入口 15:10 (解散)

連日の雨で実施も危ぶまれたが、当日は曇りになり傘をさす事もなく歩けた。班を6人と7人に分け、一班が見える範囲で間隔を開ける。

滝坂の道ではまさかのヒル出現。大騒動となる。家に帰ってから身体、ザック、靴にヒルがついていないかチェックした方もいたのではないのでしょうか。参加の皆様お疲れ様でした。

(木村 佐知子 記)

ターブルドート 生駒山 7月19日(日) CL 飯塚・SL 山口 参加者9名
枚岡神社(体操) 15:40 出発 → 枚岡展望台(休 16:20) → 神津嶽(休 16:50) → ぼくらの広場(休 17:15) → 神津嶽(休 17:50) → らくらく登山道みはらし台(18:30～19:30 食事・夕陽&夜景観賞) → 近鉄瓢箪山駅 20:50 着、解散

3月以来の公式山行と担当+自身の登山自体も実に数ヶ月振りという状況に、こまめな休憩と水分補給に注意し、ソーシャル(フィジカル)ディスタンスを心がけ

ていましたが、久々の仲間とのハイキングに会話もつい弾み、気付けばいつの間にか距離が縮まってしまう有り様でした(笑)ヘッドランプを使用しての夜間歩行の練習も出来、 のんびり楽しい時間と皆さんの元気そうな顔を見られてとても嬉しかったです。ご参加下さった方々にお礼申し上げます。

(飯塚 記)

有志山行 六甲山 7月 4日 L園 敏雄 参加 11名
 阪急芦屋川駅北部公園 8:30 集合 8:35 発～高座の滝 9:05～ロックガーデン中央稜～風吹岩～雨ヶ峠 10:55～住吉川渡渉地 11:20～雨ヶ峠 11:45～東お多福山 12:50～東お多福山登山口バス停にて一部解散 13:40、残り 4名は弁天岩經由芦屋川駅 16:30 着

雨模様の中、大雪、十勝有志山行のトレーニングで芦屋川から地獄谷遡行、六甲山頂を經由して有馬迄の山行を計画。芦屋の住宅街から外れるあたりで本降りに、高座の滝は水量が多く轟音を立てて落ちている。地獄谷を覗くと堰堤には水が張り谷の水量も多く、遡行は危険と断念し中央稜を進む。稜線に出ると風も出て、じっとしていると体が冷える。風吹岩に着くと岩が崩落して立ち入り禁止のロープが張られていた。外観を見ても階段が減り、上がり切った左側にあった岩もなく様子が違う事が一目でわかった。横池東側の広い所で休憩後、雨ヶ峠で昼食。その後山頂に向かって住吉川渡渉地点に着くと、濁流となっており足を取られそうで渡渉は危険と判断し引き返す。雨ヶ峠でこの後の予定を検討、東お多福山から奥池經由観音山から甲陽園のコースに変更とした。が東お多福山で風雨が強くなり注意報などが出ていないか情報収集する。強風注意報が出ているという事で山行を断念。バスで下山する者と、芦屋川駅まで歩いて下山する者とバス停で別れ、この日のトレーニング山行を終えた。

(園 記)

有志山行 北海道大雪山系旭岳と十勝岳 7月 15～18日 CL園 参加 11名

7月 15日	関西空港 10:45 発→新千歳空港 12:45 到着 →レンタカー 2台で移動→ホテルベアモンテ 18:00 到着 宿泊
7月 16日	ロープウェイの旭岳さんろく駅 6:30 発～すがたみ駅 6:40 着 →姿見駅→姿見の池 7:20→旭岳石室→地獄谷、金庫岩→旭岳 9:25→雪渓 →間宮岳→11:15 昼食→中岳分岐→中岳温泉→裾合平 13:10→夫婦池 →ロープウェイすがたみ駅 15:00 発～さんろく駅 15:10 着 →十勝岳温泉のカミホロ荘へ車で移動 16:50 着 宿泊

7月17日	5:15 出発→安政火口 6:15→上ホロ分岐、300 階段、化物岩、かみふらの岳 8:25 →上ホロカメットク山 8:45→避難小屋 9:15→大砲岩辺り昼食 9:40→十勝岳 10:30 着 →ピストンして→カミホロ荘 14:10 着 宿泊
7月18日	青い池、白金不動の滝、ファーム富田（美瑛町ラベンダー畑）を観光 新千歳空港 16:25 発～関西空港 18:40 着 解散

北海道の最高峰、旭岳へはロープウェイを利用。着いた姿見駅は既に標高 1,610m です。北海道は厳しい環境のため、本州の 3,000m・級・の山に匹敵する高山帯です。森林限界は 1,500m・前後と低いため、私達は歩き始めからキバナシャクナゲ、ミネズオウ、エゾコザクラ、コケモモ、コマクサ、イワブクロなどの花を堪能することができました。この山は火山礫（ガレ）や砂礫（ザレ）が多く、また雪渓が多く真夏でも消えずに残ります。頂上まで 680m・の標高差を登りきった後、約 4 回雪渓を楽しみながら下りました。

17日は十勝岳です。大爆裂火口の安政火口や荒々しく削れた大規模な崩壊が繰り返されるカミホロ稜線は、十勝岳の見所と言えるでしょう。この辺りではお花畑で有名な、富良野岳に登る女性を多く見かけました。私達はその後、地獄のような 300 階段や歩きにくいガレ場を通過、金庫岩や化物岩を探したり、噴煙を吐く山々を見ながら上ホロカメットク山へ。この辺りもまさにお花畑でチングルマ、エゾノツガザクラ等がいきいきと咲いていました。キツイ階段やガレ場の登りのせいで、かみふらの岳と避難小屋でリタイヤされた人が 4 人出てしまったのは残念でした。十勝岳頂上に到着後ピストンで下山したのですが、違う道を歩いているかのよう
に、雄大な山々を眺めることができました。ウラジロナナカマドは白い花を咲かせていて、紅葉して葉が散ると赤い実が残って、雪に映えるのだらうなど、その姿を想像しました。帰りの日はおまけの観光を楽しみました。3回のきついボッカトレ
ーニングに耐え、みんなの気持ちもひとつになって楽しく歩けたのは CL 園さんを始め皆さんのお陰です。本当にありがとうございました。

（森野 記）